

令和7年度 大田区立都南小学校 自己評価 報告書

令和8年3月6日

○ 本校の概要

○学校規模……児童数:368名・学級数:13学級・教職員数(37名):校長1名、副校長1名、教員16名、養護教諭1名、特別支援専門員1名、都講師3名、事務1名、区会計年度任用職員5名 区非常勤等6名、スクールカウンセラー2名  
 ○本校の教育目標……○健康で明るい子 ○よく考え行動する子 ○人を愛するやさしい子 ○終わりまで仕事をやりぬく子 (特に◎印を重点と確かな学力の定着と豊かな心の育成を目指す。)  
 ○本年度の主な取組……校内研究:教科(道徳科) 研究主題「考えたくなる道徳授業の工夫」各学級の実践を通して実現する。  
 ○特色ある教育活動……『学校体制で学級経営を支える「学習」「学年」「地域」の力 対話で育つ都南の子』をテーマとしてカリキュラムマネジメントを取り入れた教育活動を進める。  
 「都南の学び合い」「都南小学校のきまり」を継続的に指導し、日々の積み重ねによる基礎的、基本的な学力の定着と自律した生活態度の伸長を図る。学校支援地域本部「スクールサポートとたん」と連携した学習サポート事業を充実させる。  
 コーディネーショントレーニングを活用して体力向上を図る。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	学校関係者記入欄										
								評価	人数	コメント								
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来 社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	都南の学び合いアンケートにおいて、「学校での勉強や生活に一生懸命取り組むことができる」と答えた児童が80%以上。	4	・おおたの未来づくりの授業開発を進め、教科横断的な視点で学習を構築することで、意欲的に活動する姿が見られた。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、更に考えを交流したりする場面や主体的に活動する場面を増やしていく。	A	3	・特に社会科見学、デフリンピックにおいては、受動的に参加するのではなく、事前準備、実施、振り返りと、とても実りある学びの機会になっていたように見受けられた。 ・都南の学び合いのアンケートが示されていないため、評価が難しい。「笑顔と学びの体験プログラム」についての説明や資料等が欲しい。スタディー・ログについても地域の委員には分かりにくい。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	都南の学び合いアンケートにおいて、「学校での勉強や生活に一生懸命取り組むことができる」と答えた児童が70%以上。	3	・社会科見学やデフリンピック観戦、笑顔と学びの体験活動プログラムなどの体験活動を通して他者と協働していく力の育成を図っている。				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												3	都南の学び合いアンケートにおいて、「学校での勉強や生活に一生懸命取り組むことができる」と答えた児童が60%以上。	2	・ICT機器を活用しながら授業を展開できている。スタディー・ログの活用による個別最適化された指導や学習の展開などを今後更に進めていきたい。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
お世個 お界別 たと目 標な2 うが 人 材を 際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者向けアンケートにおいて、「お子さんは、地域や外国の方と積極的にコミュニケーションを図ることができる。」への回答が80%以上。	4	・外国語の時間講師やALTと連携しながら、英語に親しめる環境を作ることができた。英語カフェの取り組みを更に充実させ、日常生活の中に英語によるコミュニケーション環境の構築を図ってきたい。 ・道徳科の研究を進め、指導方法について協議を重ねることができている。他校の研究会にも多くの教員が参加し、最新の知見を活かして道徳性や人権感覚の育成を進めている。外国籍児童も多くなっている中、互いの文化を尊重する気持ちや姿勢も更に育成していきたい。	A	4	・都南小のこれらから一つ一つの課題と感じる。この項目が「出来ていないからダメ」とは感じておらず、これからの時代「この項目が伸びると更に良い」と感じます。 ・地域の中で海外にルーツを持つ人材や、日本の文化を紹介できる人材などを発掘して学校とつないでいくよう、地域協働本部などと連携が必要と考えます。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	保護者向けアンケートにおいて、「お子さんは、地域や外国の方と積極的にコミュニケーションを図ることができる。」への回答が70%以上。	3	・SDGsなど、グローバルな課題に対する取り組みにやや不十分な面が見られた。地域課題を通して地球規模の課題への気づきや行動への関心を高めるための地域教材の開発を進めていきたい。				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												2	保護者向けアンケートにおいて、「お子さんは、地域や外国の方と積極的にコミュニケーションを図ることができる。」への回答が60%以上。	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															1
た一個 め人別 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と能 育力 成を をを 発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	教員向けアンケートにおいて、「道徳科を中心とした各教科での学習などを通じて、基礎基本の定着を図る指導や個に応じた指導を行っている」への回答が80%以上。	4	・道徳科の校内研究を推進し、他教科の学習にも研究の成果を活かしながら教育活動全体を通して道徳性の育成を図ることができている。 ・日常の授業に加え、朝学習や都道府県検定など本校独自の検定を実施し、学力の育成を図ることができている。	A	4	・都道府県検定、ティーボールなど、子どもたちが興味をもって楽しみながら取り組んでいると見受けられ、とても良いと感じます。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	教員向けアンケートにおいて、「道徳科を中心とした各教科での学習などを通じて、基礎基本の定着を図る指導や個に応じた指導を行っている」への回答が70%以上。	3	・体育学習にコーディネーショントレーニングを取り入れ、タグラグビー、ティーボールなど様々な運動に取り組んでいる。安全面から休み時間にも十分な運動環境が確保できていないこともあり、日常的な運動習慣の形成は今後の課題となる。				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												3	教員向けアンケートにおいて、「道徳科を中心とした各教科での学習などを通じて、基礎基本の定着を図る指導や個に応じた指導を行っている」への回答が60%以上。	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															1
児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	教員向けアンケートにおいて、「道徳科を中心とした各教科での学習などを通じて、基礎基本の定着を図る指導や個に応じた指導を行っている」への回答が60%以上。	4	・小中一貫教育や保幼小連携を有効に活用し、情報交換を行っている。展覧会や児童会活動に園児を招待するなど、円滑な接続のための交流も進めている。会に発達段階に応じた指導方法などについて情報交換し、互いに高め合える関係を構築するよう努めている。	C	0										
		3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								3	教員向けアンケートにおいて、「道徳科を中心とした各教科での学習などを通じて、基礎基本の定着を図る指導や個に応じた指導を行っている」への回答が60%以上。	0						
		2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											3	教員向けアンケートにおいて、「道徳科を中心とした各教科での学習などを通じて、基礎基本の定着を図る指導や個に応じた指導を行っている」への回答が60%以上。	0			
		1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。														1	教員向け「道徳科を中心とした各教科での学習などを通じて、基礎基本の定着を図る指導や個に応じた指導を行っている」への回答が60%未満。	

学 校 別 力 目 ・ 標 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	教員向けアンケートにおいて、「授業改善や業務改善などを通して、働きやすい職場づくりができています」への回答が80%以上。	4	・働き方改革を進め、効率的な業務推進への意識が高まっている。在校時間も短くなりつつあり、教材研究や指導方法の検討などの時間を確保できるようにしている。 ・児童一人一人に応じた指導について、教員間で情報交換をし、指導の充実に努めている。個別最適な学び、協働的な学びについては、まだ不十分な面がみられるので、課題として取り組んでいく。	A	4	・様々な子ども、ご家庭がある中で、都南小の先生、職員の皆様は本当によくやってくださっていると感じます。ご自身のお休み等もきちんと確保していただき、私生活の充実と学校教育のさらなる向上について好循環が生まれることを期待します。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	教員向けアンケートにおいて、「授業改善や業務改善などを通して、働きやすい職場づくりができています」への回答が70%以上。	3		B	0	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3	教員向けアンケートにおいて、「授業改善や業務改善などを通して、働きやすい職場づくりができています」への回答が60%以上。	2		C	0	
					1:	D		0		
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者向けアンケートにおいて、「すべての子どもたちが自分らしくいきいきと生きるための学びを支援している。」への回答が80%以上。	4	・「都南の学び合いアンケート」を年に2回行い、児童の学習や生活の実態について調査し、児童理解に努めている。自分のクラスの状況を視覚的に表すことができ、子どもたちに改善への気づきを促すことにつながっている。 ・学校生活調査や校内独自のいじめアンケートを定期的に行い、児童の実態把握、問題の早期発見、早期解決に努めている。 ・問題行動、不登校問題に関して、学級担任と管理職に加え、全職員が連携して対応している。 ・月に一度、巡回指導員やスクールカウンセラーも交えながら、特別支援校内委員会を開催し、児童の実態について共有している。	A	3	・これまでの取り組みに記載されている内容について、しっかり行われていると実感します。近隣、他の小学校の状況に比べ、都南小が安定運営されていることに感謝しております。 ・学び合いアンケートの結果が示されていないため評価できません。インクルーシブ教育システムの構築に向けては、対象児童のみならず、マジョリティーの姿勢が重要であるとのことです。宜しくお願いします。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者向けアンケートにおいて、「すべての子どもたちが自分らしくいきいきと生きるための学びを支援している。」への回答が70%以上。	3		B	0	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者向けアンケートにおいて、「すべての子どもたちが自分らしくいきいきと生きるための学びを支援している。」への回答が60%以上。	2		C	0	
					1:	D		1		
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 つ 習 く 空 間 と す 安 心	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	「教員向けアンケート」において、「避難訓練や安全指導などを通して、安心・安全な学校づくりに取り組んでいる。」の回答が80%以上。	4	・おたの未来づくり、総合的な学習の時間、生活科の学習などを通して、学校や地域の伝統や特色について理解を深めることができた。地域教材はまだ開発の余地が大きいので今後更に進めていく。 ・毎月実施の避難訓練や安全指導などを通して、危険や災害に対する児童の意識を高めることができた。	A	4	・地域の多様な団体等と連携し、文化やものづくり、歴史などを学ばせてあげたいと思います。地域協働本部と連携してほしいです。 ・安心、安全は保護者として最も大切にしていきたい着目点です。引き続き宜しくお願い致します。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	「教員向けアンケート」において、「避難訓練や安全指導などを通して、安心・安全な学校づくりに取り組んでいる。」の回答が70%以上。	3		B	0	
					2:	C		0		
					1:	D		0		
学 地 学 個 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 く 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 す 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートで「学校は、保護者会・学校だより・学年だより・ホームページ等とおして学校生活や教育内容について、分かりやすく伝えられていると思う。」との回答が80%以上。	4	・サマーわくわくスクール、放課後学習など、PTAやスクールサポートなどと連携した活動を実施した。 ・PTAや地域と連携しながら、登下校時や放課後に、児童の見守り活動を実施している。 ・tetoruなどの情報発信ツールも活用して、情報発信を行っている。紙媒体、データ配信など目的に応じて使い分け、情報提供が円滑に行われるよう努めた。	A	4	・保護者アンケートの回収率があまりよくないので、何とか工夫をしていく必要を感じます。 ・地域で行われるイベント、お祭りなどに教職員の方々が顔を出してくださると子どもたちも大変喜び、また、学校、地域間の結びつきも更に強まると思います。お忙しいと思いますが、ご無理のない範囲にて引き続き宜しくお願い致します。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「学校は、保護者会・学校だより・学年だより・ホームページ等とおして学校生活や教育内容について、分かりやすく伝えられていると思う。」との回答が70%以上。	3		B	0	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートで「学校は、保護者会・学校だより・学年だより・ホームページ等とおして学校生活や教育内容について、分かりやすく伝えられていると思う。」との回答が60%以上。	2		C	0	
					1:	D		0		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す